

アンケート結果

参加者数 81 名 回答者数 66 名 回答率 81.4%

1 所属団体について教えてください。

社会福祉事業施設	3	4.5%
地域包括支援センター・障害者相談支援センター	3	4.5%
地区社会福祉協議会	7	10.6%
民生委員・児童委員	13	19.7%
地区保護司会	2	3.0%
町会・自治会	14	21.2%
当事者団体	7	10.6%
ボランティアグループ	8	12.1%
学校関係者・PTA協議会	2	3.0%
老人クラブ	1	1.5%
行政関係	5	7.6%
未記入	1	1.5%

2 今回の懇談会の内容はいかがでしたか？該当する数字に○をつけてください。

良かった ←—————▶ 良くなかった					未記入
5	4	3	2	1	
16	33	13	0	0	4
24.2%	50.0%	19.7%	0.0%	0.0%	6.2%

3 今回の懇談会は「地域でともに生きる」について考えるための参考になりましたか？該当する数字に○をつけ、第一部及び第二部を通じて、特に印象に残った話、参考になった話を枠内にご記入ください。

きっかけになった ←—————▶ きっかけにならなかった					未記入
5	4	3	2	1	
13	39	12	0	0	2
19.7%	59.1%	18.2%	0.0%	0.0%	3.0%

3 今回の懇談会は「地域でともに生きる」について考えるための参考になりましたか？該当する数字に○をつけ、第一部及び第二部を通じて、特に印象に残った話、参考になった話を枠内に御記入ください。

- ・ 仲間意識が強くなり継続性が高くなり活動されているところに感銘を覚えました。「ふれあいコンサート」は手話コーラスですが、これにはいつも感動しています。少しは障害者と健常者の距離が近くなって来た様に思います。また「おたがい様」はすばらしい！
- ・ ラジオ体操でつながり、助け合いがうまれたこと。
- ・ 永く続けるには世話役の意識が大切だと思う。
- ・ 理想ごとより体験談が大変よかったです。
- ・ 目的を持ったリハビリ。
- ・ 長年月ご苦労様です。
- ・ 安永さんの事例紹介。継続性。
- ・ ラジオ体操の話が、とても印象に残りました。
- ・ 近隣とのつながりの大事なこと。高齢で次の担い手を作ること、どの地域でも大変である。
- ・ 高齢者が、このように頑張っているという事例をお話し頂ける機会を多く作って頂けたら良いと思う。
- ・ これからは介護の件、大変になる（4月）から地域でも見守りも大変だと。
- ・ 新しい若い人がもう少し地域に参加出来るには？顔見知りになる事、継続は力なり。90近い方々が元気に参加している事がおどろき。
- ・ 道筋までは至らなかったが、考えるきっかけになった。
- ・ 福祉施設の役割が増えたということ。方策が見当たらない。
- ・ 何歳になっても向上心は必要だと思った。
- ・ 小さなことから広げていく。
- ・ 活動事例の活動内容はすばらしかった。よきリーダーとよき組織が形作られているのかと思った。障害者が身をさらすことの勇気も感じた。
- ・ 岡上町内会の進め方が大変参考になりました。
- ・ 何事も継続が大切だとしみじみ思います。ラジオ体操が、地域に定着していてうらやましい限りです。「さわやか会」これから後遺症のリハビリがますます必要となる方達が増えていくと思います。先べんをつけて下さって敬服いたします。
- ・ 第一部の発表が共に良かった。20～30年以上にわたり、このような活動を発案し、継続してきたことに敬意を表したい。
- ・ 障害を持ったお子様の保護者の方からお話をうかがう事ができた。
- ・ 災害時要援護者リストの内容（被援護者氏名）は本人の了解を得た上で、町会の班長までに周知している。と云う発言あり。行政は従来この点につき否定的と感じてい

る。一度行政に確認してみたい。

- ・ ラジオ体操の周囲に与える影響力の多さに考えさせられました。知的、身体の障害のある方に関して。
- ・ 全員が高齢化する中での、福祉活動の継続の困難さの克服に対するさまざまな考え方。
- ・ 長年継続して活動されている熱意に驚かされました。同時に自分の心にも何か響くものがありました。
- ・ ラジオ体操の実施について。笑いが大切。笑いヨガを取り入れ継続を考えている。
- ・ ある地域のラジオ体操の取り組みはとても企画も良く、魅力的な活動でした。ですが、あるマンションでは所帯数の多さからなかなか現実的に難しいのかなと思いました。
- ・ ①ラジオ体操…うらやましい。仲間近所のつながりのきっかけになる。②障害者…リーダー、コーディネーター、の必要性を感じる、次世代（小学生・中学生）は障害者への偏見は無い。
- ・ 自治会 etc が各自努力して地域に貢献していることが良く理解できて良かった。
- ・ 講演されたお二人がお若いのには驚きました。自分らがまだ若いと思いました。皆でグループ討議は面白かった。
- ・ いろんな人達とのお話の中で、それぞれの地域性をもつなかでがんばっておられることが伝わってきました。
- ・ 地域での活動状況や、地域・町会などの状況も知ることができた。情報が大切。
- ・ ラジオ体操が次世代交流につながる事が理解できた。
- ・ 障害者との共に生きるが主語の様で、一般人をどうするかがまず第 1 であろう。
- ・ ラジオ体操を皆でできることがうらやましい。
- ・ 仲間づくり。後継者が育っている。継続は力なり。地域にはコーディネーター、おせっかいやき、でしゃばり大切。お互い様の精神。
- ・ 絆、つながりをつくる仕組みの構築（システム化）の必要性を痛感。継続は力なり、ラジオ体操を通じて仲間づくり、そしてそれが近所の助け合いの核になると感じた。
- ・ 障害のある方が、もっと理解できる場が必要。
- ・ 第一部、2 障害者も自ら積極的に参加して地域づくり。澤芳夫氏の。
- ・ 健康寿命を生きる為の継続の素晴らしさ実感。
- ・ 町内会での行事（盆踊りその他）が盛大に行われている話を聞き、嬉しく思いました。
- ・ 安永さんの若いエネルギー。澤さんのお話し中のさわやか会の活動紹介。町会・自治会の役員の人選に苦労し、女性ばかりの所もあるという現実。
- ・ 安永様 ラジオ体操を長年続けられていて驚き→地域との交流につながる。澤様

障害者の方を偏見な目で見ていることは無いが、無関心であったと反省しました。

- ・ 継続している事がすばらしい事。自治会の協力とみなさんのかかわり方。これからも長い継続を心からお願い致します。
- ・ 顔なじみを作る活動が継続していることが素晴らしい。
- ・ 色々な方との話し合いの中で顔見知りを作ることが大切と感じました。
- ・ ラジオ体操を軸として地域の交流を促進させることのできる姿を見せて頂きました。ご高齢者の参加はすごいですね。障害者の方への偏見が残っているのは残念です。地域ぐるみのキャンペーンを通し、偏見をなくしていきたいです。
- ・ 1、ラジオ体操を通じて、地域のつながりを作ることの重要性和、長く続けている理由がよくわかりました。2、障害者との接し方を考え直すきっかけになりました。身内の方としては「身をさらす」という気持ちを持っていることがわかりました。

4 地域で「ともに生きる」ために大切なことはどのようなことだと思いますか?大切だと思うことを枠内に御記入下さい。

- ・ 銘々が浅くても良いので広い気持ちを持って「おたがいさま」の気持ちを持ってすべての事に対応して行ければと思います。一方マイナス志向の言動はつつしんで行けば良いと思います。
- ・ 多世代交流していく方法や地域でつながる方法を考える事。
- ・ 互いの思いやりが空廻りしないような雰囲気作りが重要。
- ・ もっと社会がボランティアに参加するよう環境が欲しい。多くの住民（市民）は興味がないみたいだから、参加する輪がもっとあるべきである。
- ・ 余裕（特に時間）を作ること。
- ・ 少人数から始める。
- ・ 他人への配慮、相手の事を理解すること。
- ・ ご近所付き合い。
- ・ 他人を認める。理解する。
- ・ 地域での活動を知る大変良い機会で有意義な催しと感じました。
- ・ 安心して暮らせる町づくり。声をかけあう。
- ・ あいさつをきちんとする。隣近所の人達とのコミュニケーションが大事。小さな輪から始める事でいいのでは。リーダー作りは大変だが大切。
- ・ 自治会の役割を明確にする。高齢化対応を行政が考えよ
- ・ まとめ役となる人（世話をやく人）が必要
- ・ 理解するという事かなあ…。良い意味での世話好きであることは大事だと思う。
- ・ つながりをどうつくっていくか①近所から地域 ②世代間 ③障害の有無
- ・ 偏見をなくすことが重要だと思う。障害者も地域に出ていくこと。それを地域が受け入れることが必要である。

- ・「向こう三軒両隣」の人々が何をしているかを知っておくことが必要。
- ・互いに知り合うこと、率直にウィークポイントをさらけ出して、まわりの理解を深めていくこと。お互い様という意識。必要としていることについて声をあげていく。
- ・子どもから高齢者までが一緒に集える機会を積極的に作ること。
- ・地域で乗り合いバスの運行、老人の話し相手
- ・お互いの違いを認め合う事・共感する事・他人への配慮・思いやること・相手の事を知ろうとすることなどを日々の授業の中でしっかりと取り組んでいく必要をまた確認しました。
- ・各々性格の違いあり、あまり濃密な関係を望まないケースもあるだろうと思われる。只、平素あいさつ、会話を言い、いざという時に協力したいと思えるように努めたい。
- ・相手の「おもい」を大切にしながら生きる事。
- ・お互いの違いを認めあうこと。
- ・顔の見える関係づくり。お互い様の気持ちが一番大切でないかと感じました。
- ・共感と違いを認め合うことが大切。
- ・地域の方がお互いに顔を合わす機会を増やす事。交流する機会を増やす事で顔見知りとなり親しみを感じると色々な物事が上手く回る様に思いました。
- ・点と点を結びつける役割の重要性、所謂面での活動を支える為の行政等のアシスト etc の必要性を痛感した。
- ・楽しい地域にしようとの働きかけ
- ・つながり、リーダーシップ誰がどうとっていかかが大切。地元だけでは厳しい面もある。(高齢化進行)
- ・地域でお互いに寄り添っていくこと、自分ができる事を一生懸命やっていくこと。ネットワークを広げてひとりぼっちにならないようにコミュニケーションをとっていく。
- ・地域状況を把握する知ることが大事だと思った。その中で町会等それぞれの単位で何が出来るのか実践する小さなことを継続、そして仲間をふやすこと、広める事につなげることが大事なことだと思う。
- ・地域でともに暮らす人同士が、互いを思いやっていく気持ちを大切にする。そのような思いを行動化することが大切。
- ・共に生きる⇒人に感謝して生きる
- ・まず顔と顔がつながることが必要だと思います。地域の代表となる方のパーソナリティーが大きいと思いました。
- ・お互い様の心持で周りに気配り、時間と体力を地域の力として発信でしょうか。
- ・障害者が外出せよとの意見有り。→当人は全く抵抗がないはず。廻りがちゅうちょしている。

- ・ 他人への配慮
- ・ 地域の見守りとか継続性が必要と痛感。その為には自治会 etc の役員会とは別個の組織化が必要。金程富士見会の事例の拡大化をはかる必要あり。
- ・ 場がない。地域の公共の場に話し集える場が必要。
- ・ 助け合い。お互い様。
- ・ お互いの違いを個性として認めあうことが必要ではないか。
- ・ 町会で行われていることを、継続的につなげていくことが宝物になっていて、それを核に広がりが見られることが、すごいと思った。
- ・ 仲良くなること。お互いを認め合う事。一緒に楽しい時間を共有する事。
- ・ 声掛け＝高齢者が多くなりお互いに声掛けて。
- ・ とにかく話しかけることが大切で、手助け出来ることがあれば、とりあえず声を出し、行動する。
- ・ 老若男女を問わず、他人に関心を持つことが必要ではないか。顔見知りを作り仲間をたくさん作る。
- ・ 信頼、人と人とのつながり、挨拶が大切なのではないでしょうか。
- ・ 「お互い様であること」いつかは年をとり、誰かの世話にならなければ、生きてはいけないのであり、今は元気でも明日倒れてしまうかもしれないのだから、自分の事だけを考えず、他人への思いやりを持つことが大切と思います。

5 今後懇談会で話し合いたいテーマなどがありましたらご記入ください。

- ・ 福祉コミュニティーのお話がありました。この福祉コミュニティーのことを教えて欲しいです。(民生委員・児童委員が不足している昨今ですので)是非お願い致します。
- ・ ボランティアの軸をどのようにしたら広がるかを考えたい。
- ・ 障害者差別解消をどの様に対応していくことか。
- ・ 点を面・線にするのが大切だということ。
- ・ 自治会の運営を円滑にする方策。ボランティア活動に新規参加する人をどう獲得するか。
- ・ 子ども・家庭をとりまく問題。二極化等。
- ・ 1人住いの高齢者の地域参加をうながす。
- ・ ボランティアの人々の横のつながりを作りたい。
- ・ 今日の話合いのまとめが少しずつでも浸透していけますよう。少しずつこの麻生区の街が暮らしやすくなっていていっていると思います。それぞれの意識が実をむすびますよう。

平成 28 年度 川崎市麻生区社会福祉協議会 在宅福祉サービス部会
地域でともに生きるを考える懇談会 ～活動事例から「地域でともに生きる」を考える～

- ・ 知的・身体障害の方の問題。
- ・ 地域の世代をこえた、つながりのテーマ
- ・ テーマではありませんが、「地域でともに生きる」為にはまずは地域の方が理解し合えない事には何も実現できないのかと思います。例えばラジオ体操を推進するのであれば、行政は公園を積極的に使える仕組みに変えていく事も大事ではないでしょうか。
- ・ 自治会活動の活性化。
- ・ 町会と周辺（企業・団体等）との連携をどう考えていくか？（防災、福祉、地域でともに生きるため）
- ・ 異年齢交流の大切さ。
- ・ 今回のような取り組みを沢山聞きたい。特に麻生区での取り組み。年に数回あった方が、互いの事を知る機会になると思います。
- ・ 会の後に少し、講演会をいれたら。
- ・ 障害の壁を取り除くには。
- ・ 地域防災・地域防犯
- ・ 引続き「ともに生きる地域づくり」について話合いたい。
- ・ 実践活動とか体験事例を発表してもらうのがよいと思う。
- ・ 見守りの現状。お助け支援の事など。